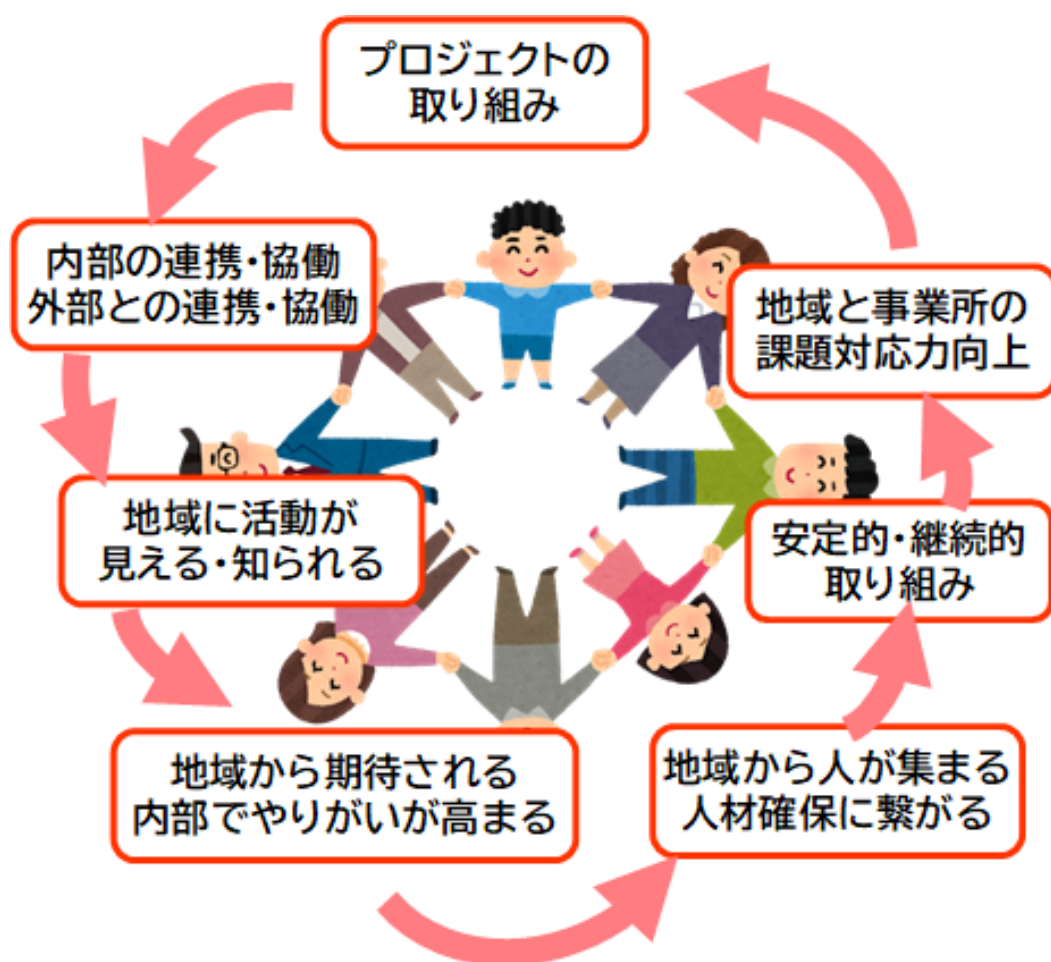


広島県老人福祉施設連盟

地域福祉拠点設立推進プロジェクト

プロジェクトの進め方

(手順書)



2026年7月

地域福祉拠点設立推進プロジェクト会議 発行

地域福祉拠点設立推進プロジェクトについて

本プロジェクトは、社会福祉法人が運営する高齢者施設・事業所において、生活相談員を中心に地域の福祉ニーズへ目を向け、地域とのつながりを深めることを目的として、平成 29 年度(2017 年度)から広島県老人福祉施設連盟の重点事業として開始しました。

プロジェクトのスタートにあたっては、「生活相談員スキルアップ研修」を実施し、その修了者が所属する施設・事業所を中心に「地域福祉拠点設立推進プロジェクト」として展開してきました。現在では、研修修了者の所属の有無に関係なく、毎年度、県内 6 ブロックの代表施設から生活相談員をはじめ、介護職員、看護職員、管理職など多職種が参加し、2 年間にわたり地域福祉活動に取り組んでいます。

社会福祉法人には、地域共生社会の実現を担う社会資源として、地域の福祉課題や生活課題に目を向け、公益的な取組を推進することが法的にも求められています。こうした取組は各法人・施設が単独で実施することも可能ですが、広島県老人福祉施設連盟では、各ブロックの代表施設が相互に学び合い、実践を共有しながら地域福祉活動を推進する仕組みとして、本プロジェクトを継続しています。

本プロジェクトは、社会福祉法人が運営する高齢者施設・事業所が、地域に不可欠な社会資源としてその役割を発揮し、地域住民や関係機関からさらに必要とされる存在であり続けることを目指す、広島県老人福祉施設連盟独自の重点事業の一つです。地域との新たなつながりを創出し、地域共生社会の実現に貢献する地域福祉拠点づくりを推進しています。

プロジェクトの概要と進め方

I プロジェクトの概要

1. 地域福祉拠点プロジェクトの本来目的(制度・趣旨ベース)

社会福祉法人が運営する会員施設・事業所が、地域の社会資源として、「地域生活課題」に対して分野横断的に関わり、“地域共生社会の一翼”を担うこと

(1) 地域共生社会の実現

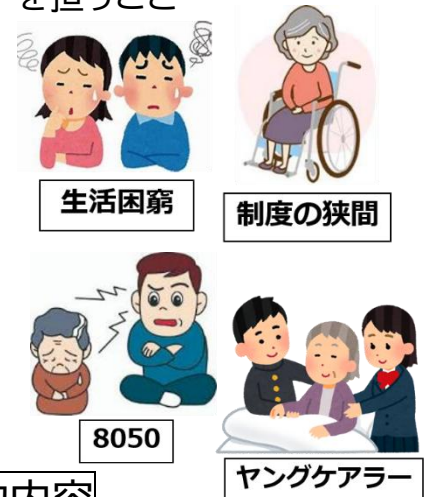
- 制度や分野を超えた支援
- 住民・事業者・行政の協働

(2) 社会福祉法人の責務

- 「地域における公益的な取組」は義務

(3) 地域生活課題への対応

- 制度の狭間問題(8050、ダブルケア等)
- 複合課題



II プロジェクトで求められる具体的内容

1. 求められている具体的内容(本質)

(1) 地域生活課題の把握

- 単なるニーズではなく
- 制度で拾えない課題
- 複合的課題
- 潜在的課題

(例)

- 8050 問題
- 孤立
- 生活困窮
- 認知症＋家族問題

(2) 地域との接続(関係構築)

- 単なる「交流」ではなく
- 課題を共有できる関係
- 社協
- SC
- 民生委員
- 自治会
- 行政

を把握すること



(3) 分野横断的な連携

「介護の枠を超える」

- 高齢
- 障害
- 子ども
- 生活困窮
- 医療

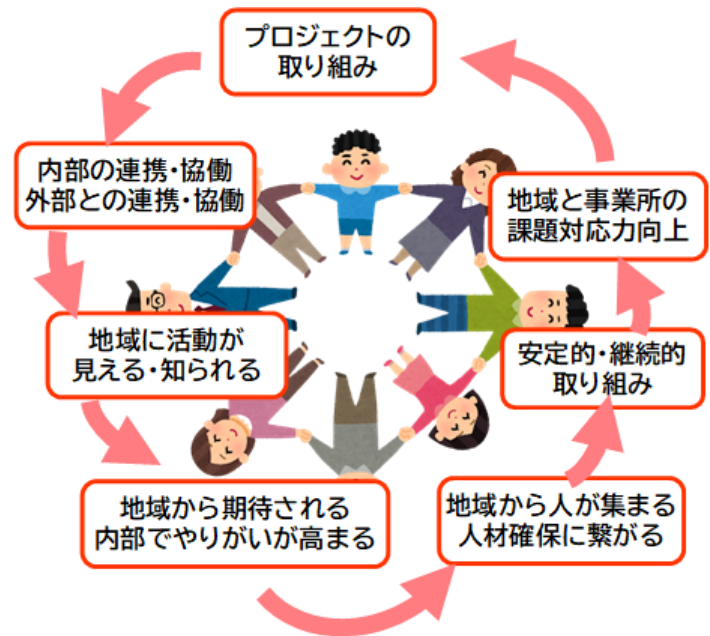
(4) 公益的取組としての実践

重要なのは制度外の支援

- 無料・低額サービス
- 柔軟な支援
- 独自の取り組み

(5) 法人・施設間の連携

- 単独では限界
- ブロック単位で連携



Ⅲ プロジェクトの進め方

1. 構造で整理

プロジェクトは以下の流れですめる

- (1) 地域課題の把握
- (2) 関係機関との接続
- (3) 分野横断の連携
- (4) 公益的な実践
- (5) 共有(発表)

詳細は P6 参照

2. よくある誤解(明確に否定)

「地域と関わればよい」→ 課題に基づいていない関わりは本質ではない

「イベントをやればよい」→ 手段に過ぎない

「発表できるレベルが必要」→ 完全に誤り(※プロジェクト 2 年目には、広島県老人福祉施設等研究発表会の場でこれまでの取り組みを発表します。あくまでも、各会員施設にプロジェクトによる取り組みを周知することが目的です。)

3. 本質を一言で

地域福祉拠点とは、「地域課題に対して関係者と連携しながら継続的に関わる機能」である

IV プロジェクト評価基準

1. 実務での判断基準(重要)

各取組を評価する際は、以下で判断できる

- 課題に基づいているか
- 関係機関と繋がっているか
- 分野横断になっているか
- 公益性があるか
- 継続性があるか

2. 《参考》評価表(取り組みの自己チェックに活用しましょう！)

No	評価項目	評価結果	留意事項
1	課題に基づいているか	はい いいえ どちらともいえない	地域課題に基づいていますか？いいえ・どちらともいえない場合は再度地域課題を整理しましょう
2	関係機関と繋がっているか	はい いいえ どちらともいえない	繋がりとは認識の広がりや取り組みへの協力、継続性にも繋がります。いいえ・どちらともいえない場合は地域住民や SC 他、地域の関係者との繋がりを構築しましょう
3	分野横断になっているか	はい いいえ どちらともいえない	地域生活に課題を抱える方は高齢者に限りません。いいえ・どちらともいえない場合は、高齢者の分野からの切り口であっても、そこに限らないニーズも意識しましょう。他分野や民間企業にも目を向けましょう
4	公益性があるか	はい いいえ どちらともいえない	社会福祉法人の「公益性」とは、①日常生活または社会生活上の支援を必要とする方を対象に、②福祉的なニーズに応える取り組みを③無料または低額な料金で行うことを指します。①～③について点検しましょう
5	継続性があるか	はい いいえ どちらともいえない	「継続性」とは、一部の担当者だけでなく、①組織全体での取り組みになっているか、②人的または財政的な無理がないか、がポイントとなります

■重要な整理

このプロジェクトはイベント・交流の促進、良い事例の発表ではなく「**地域課題にどう関わるか**」という機能の確立である

本様式は、広島県老人福祉施設連盟「地域福祉拠点設立推進プロジェクト会議」における 1 年間の取り組みを、各施設・事業所が整理するためのものです。毎年発行する事例集は、本様式をもとに作成されています。プロジェクト参加施設・事業所の皆様が取り組みを順序だてて進められるよう、本様式の項目に沿った手順を記載していますので、ぜひ参考にしてください。

なお、取り組みを具体的に進める前に、本プロジェクトが目指すゴール（目的）を、改めて組織内で共有しておきましょう。

目指す姿：「地域課題に対して関係者と連携しながら継続的に関わる機能」

【プロジェクト推進手順】

① トップから従業員への意思表示

- ☐ 経営者（理事長・施設長・管理者など）から、社会福祉施設として、地域共生社会の一翼を担うべく取り組みを進めることを発信

② 組織内でプロジェクトの運営体制を整備

- ☐ 経営者による選出又は、上司の推薦、自己推薦によりプロジェクト推進チームのチーム員を選定
- ☐ プロジェクトチームの主副担当者を選定（又は自己推薦）し、チームの運営体制を明確にする

③ 地域課題の把握（組織内・組織外）

- ☐ 組織内で地域課題について意見収集（ケースを通じて把握したこと、地域からの介護相談、ボランティアからの相談、地域住民でもある職員が生活の中で感じた課題など）
- ☐ 生活支援コーディネーター（SC）と連絡を取り合い、施設・事業所内における高齢者の生活課題や事業所に参加を求めたいことなどを確認する

④ 関係機関との接続

- ↑先ずは、所在地を担当する SC（生活支援コーディネーター）と連携
- ☐ 必要に応じて、他の機関とも連携

⑤ 定期的なプロジェクト会議を継続

- ☐ ②で構成したチームでの定期的な情報共有と協議

⑥ 分野横断の連携

- ☐ 場合によっては、高齢者の生活ニーズに限らない、地域課題への取り組みに向け、関係機関や団体と連携

⑦ 公益的な実践

- ☐ 「地域課題に対して関係者と連携しながら継続的に関わる機能」を実践する

⑧ 共有（発表）

- ☐ 本様式に 1 年ごとに取り組みをまとめる。2 年目はそれまでの取り組みを研究発表会で発表する

ブ ロ ッ ク		施 設 名	
			報告様式
タイトル			

1. 地域共生社会の実現に向けて、現状の課題

(地域の社会資源の1つである老人福祉施設として、できれば『共生社会』を念頭においた課題)

① 地域課題の把握(組織内・組織外)※2～5及び9をプロジェクトチームで協議

2. 将来的にありたい姿、ビジョン

(本プロジェクトを通してどのような『共生社会』を目指すか。住民が共感できる言葉で書く)

3. 2のビジョンに向けて、人と地域に起こしたい変化

(誰がどうなる。もしくは、誰が何をできるようになる状態を目指すのか。こんな状態をみたい!と思う3つ程度の”見たい未来“を簡潔に書く)

	見たい未来像
1	
2	
3	

4. 3の実現のために、今年度はまずどのような状態まで目指すか

(3を生み出すために、1年後に何がどうなっている状態を目指すのか。3の「起こしたい変化」ごとに、具体的な目標を書く(※評価しやすい目標設定))

	具体的な目標
1	
2	
3	

5. そのための事業内容

--

6. プロジェクト推進体制

② 経営者から公益的取り組みについて表明されたら、先ず手順②のプロジェクト推進体制を明確にする。

7. 今年度内の行動計画及び実践記録

月	何をいつまで (取り組み内容と実施日)	誰が誰と (関わる人すべて)	何のために (目的)	実践経過	評価 (目的の達成度や今後の課題)

8. プロジェクト会議の中で得たヒントや他施設の取り組み

--

9. 今年度の目標(4. 今年度はまずどのような状態まで目指すか)に対する成果と課題

	具体的な目標	成果	課題とその解決策
1			
2			
3			

10. ビジョンの具現化に向けて来年度から取り組みたいこと

2027年度の取り組み	
中長期的取り組み	

11. プロジェクト(自施設の取り組み・プロジェクト会議)を通して、他の施設に伝えたいこと

プロジェクト委員	
施設長	



広島県老人福祉施設連盟